

# 住空間 リノベーション

マンション・戸建・古民家

マンション4事例

戸建3事例

古民家6事例

古民家カフェ 兵庫県「プレムダン」

チルチンびと「古民家」の会



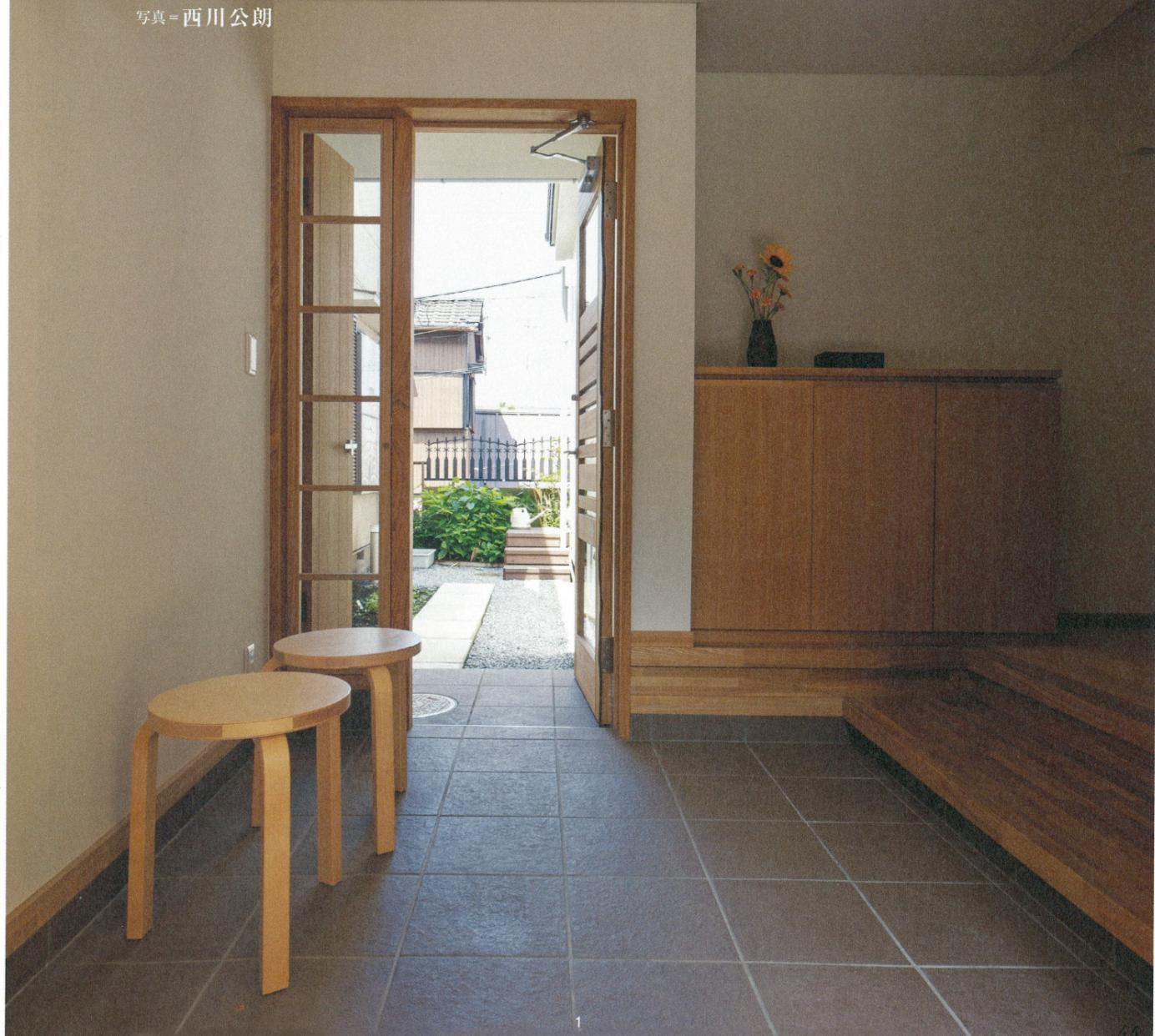
東京都台東区 内藤邸 改修設計=益子義弘／益子アトリエ

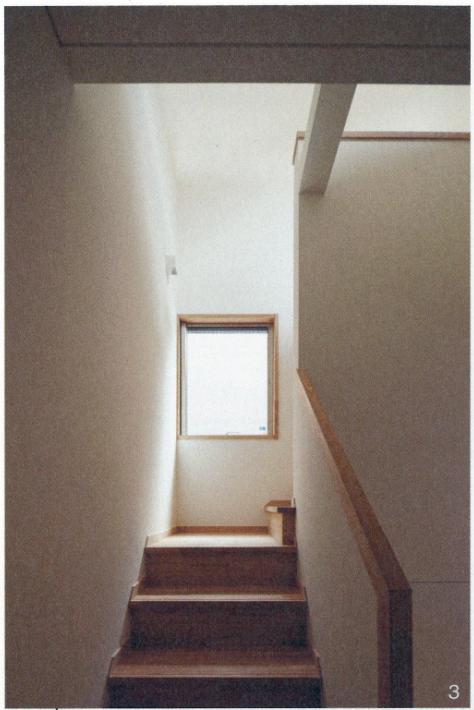
戸建

## お気に入りのホテルとの縁 建築家とマイホームリノベーション

結婚時に新築した家は築30年となり、定年退職も見えてきた。定年後の人生と暮らしを考え、再びの家づくりを決意。お気に入りのホテルの設計者である益子義弘さんに思いを託し、二人の暮らしや個々の時間を楽しむ理想の住まいが完成した。

写真=西川公朗





3

1 タイル敷きのエントランスホール。露地庭へ続く扉には通風のための小窓を設けた。 2 架け替えた階段から玄関を見下ろす。 3 階段には開口を2カ所とり心地よい採光と通風を生んだ。



2

## 二人つかず離れずで 家での時間を共有

古い建物が点在し懐かしい雰囲気が残る住宅街の高台に内藤邸は建つ。内藤さん夫妻が家づくりを考えたのは2年前のこと。結婚当時に新築した家が築30年を間近にし、定年退職も見えてきた。定年後の人生と暮らしを見

家づくりが始まると、夫妻は「日当たりがよく明るい空間」「ホテリ・アルトのように統一感のある造り付け家具」「2・3階からの眺めを生かすこと」などを要望。1階にあり日がらなかつたLDKを2階に移動し、小屋裏へ続くリビング・テラスをつくれ

い、新たな住まいを求めた。「建て替えも検討しましたが、二人が生きててもあと30年ほど、それまでもつ家ができれば十分だと思い、改修を選択しました」と、ご主人が当時を振り返る。

改修設計を担つたのは、震災後から年に1～2回ほど通つてお気に入りのホテル「ホテリ・アルト」を手がけた益子義弘さん。当初夫妻は、大手ハウスマーカーなどを回つていたが、びんと来ず。そんな折「ホテリ・アルト」に付随する「アアルト・ロッジ」に宿泊し、思わぬ進展が。「以前から、あのホテルのような空間で暮らせたらと夢見ていたのですが、一軒家を貸し切るロッジを訪れたことで憧れがいつそう増しました。そこで、思い切つてホテルの方に相談してみたのです」（ご主人）。その後、ホテル事業主であり施工を担当した八光建設の計らいで、益子さんとコンタクトがとれた。「近年、一般住宅はあまりつくつていなかつたのですが、話を聞いて引き受けることに。下町の環境も面白いと思いまし

た」（益子さん）。

家づくりが始まると、夫妻は「日当たりがよく明るい空間」「ホテリ・アルトのように統一感のある造り付け家具」「2・3階からの眺めを生かすこと」などを要望。1階にあり日がらなかつたLDKを2階に移動し、小屋裏へ続くリビング・テラスをつくれ



1 2階LDKから西側を見る。3本の既存柱とテレビ台が空間をゆるやかに区切る。2台所に立てば食堂・居間の様子を見渡せる。

3 造作ソファは下部に引き出し収納（施工側の提案で床と接する面は床材を傷めにくいフェルト貼りに）。上部には間接照明を納めた。

4 デスクコーナーは既存柱と腰壁を背に、LDKと一体ながら親密な空間に。5 食堂から東側を見る。

エンタランスホールは玄関と露地庭への接続部にガラス扉を設け、明るくのびやかな空間に。踊り場の窓からの光に満ちた階段を上がると、ご主人の書斎とLDKが。LDKは、3本の既存の柱や腰壁、テレビ台が、一体の空間に複数の居場所をつくりている。「扉で仕切るわけではなくて柱が拠り所となり、空間の間合いを生んでいます。テレビ台は食堂と居間のセパレーター。座つていると台で視線が止まる閉まれ感。立ち上がるとき視線が通るつながり感。気配や状態を伝えながら、個の時間を感じめるしつらえです」（益子さん）。

「柱は取り除きたかったのですが、実際に圧迫感もなく、なるほど、あっ

ないかと構想していたという。「小屋裏の活用は諸条件からすすめませんでしたが、夫妻のアイデアを汲み、2階にメインの空間のある設計としました。また急だった階段を架け直し、配置も玄関をゆつたりととれるよう変更しました。広い玄関で来客との交流が生まれるといいですね」と、益子さん。

エンタランスホールは玄関と露地庭への接続部にガラス扉を設け、明るくのびやかな空間に。踊り場の窓からの光に満ちた階段を上がると、ご主人の書斎とLDKが。LDKは、3本の既存の柱や腰壁、テレビ台が、一体の空間に複数の居場所をつくりている。「扉で仕切るわけではなくて柱が拠り所となり、空間の間合いを生んでいます。テレビ台は食堂と居間のセパレーター。座つていると台で視線が止まる閉まれ感。立ち上がるとき視線が通るつながり感。気配や状態を伝えながら、個の時間を感じめるしつらえです」（益子さん）。

「柱は取り除きたかったのですが、実際に圧迫感もなく、なるほど、あっ

てよかったです」と感激しました」と奥さん。ダイニングの居心地が特に気に入りましたというご主人は「朝、景色を見ながらの食事は至福の時です。夜は夜景が美しく、時間や季節の移ろいをゆったりと感じられます。高台の立地も最大に生かしていただけて嬉しいです」と目を細める。

住宅の設計はいい場所に育つ芽を植えるようだと、益子さんは話す。「建つて完成ではないですから、二人に合うように汚していくって欲しいです」。地域との交流や趣味の時間、夫妻の夢は次々に広がっているのだという。

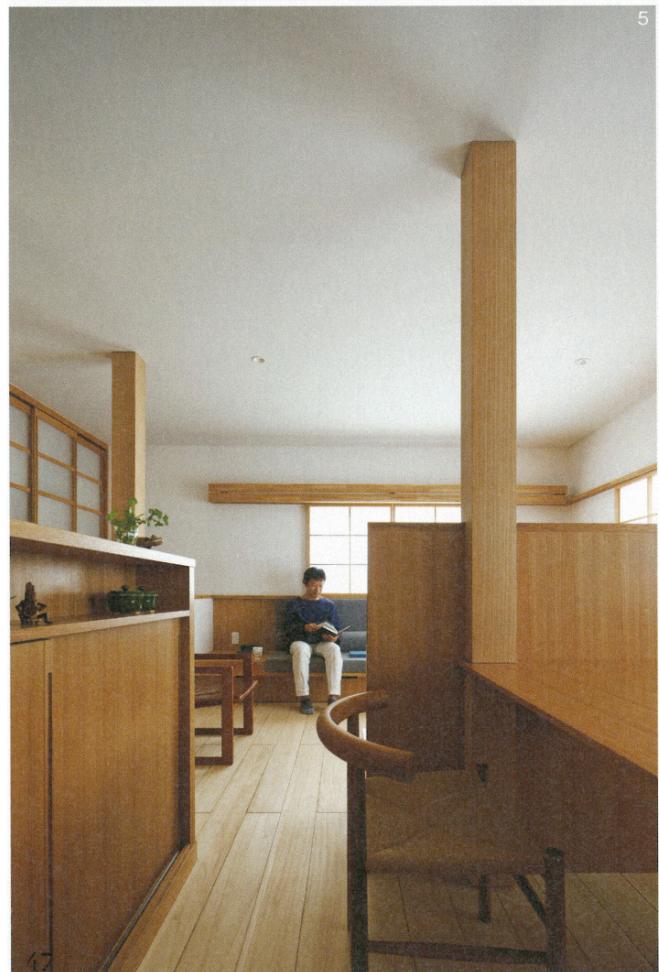


2

自然光に満ちる  
安らぎのLDK



3



47

5







2



4



3

- 1 食堂側にしつらえた収納には食器やワインを仕舞っている。  
 2 台所からLDKを一望する。光を調整する障子は大判のデザインとしニュートラルな印象に。  
 3 台所の西側。採光と換気扇を回したときに風をもらうための小窓を設置。 4 食堂から北側を見る。漆喰壁にやわらかな光が広がる。

**既存の柱を  
起点に居場所や  
間合いをつくる**

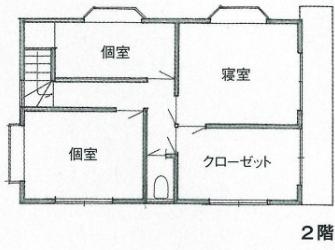


## 生活機能と趣味の余白を 備えた空間

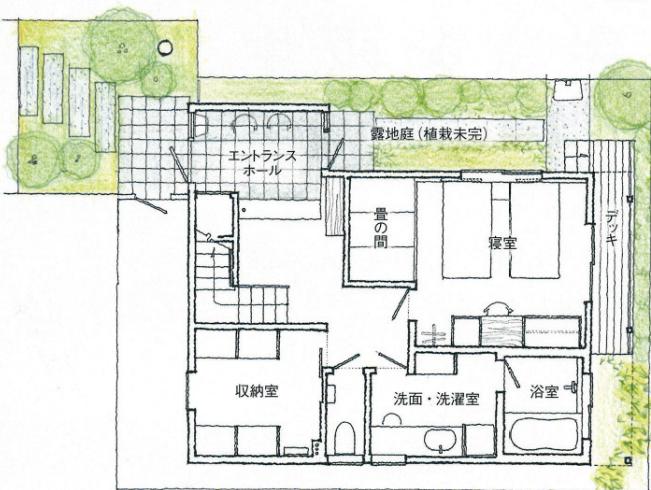
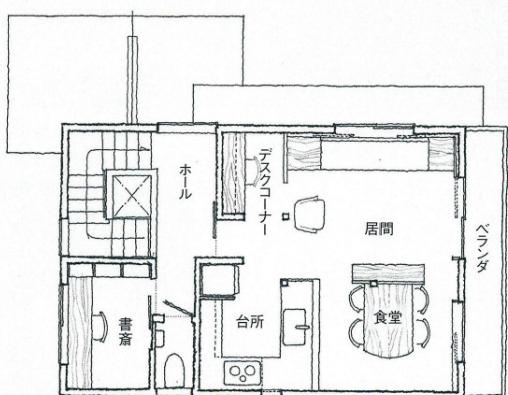
1 1階寝室。珪藻土クロスの壁、  
白で統一した造作収納が清潔感を  
感じさせる。 2・3寝室の北側  
には着付けを始めた奥さんのため  
の3畳の畳スペースを設けた。



1 ご主人の書斎。「毎朝ラジオで英会話を勉強しているので、そのスペースをつくってあげたかった」(奥さん)。2 玄関(外観は既存のまま)。3 収納スペースたっぷりの洗面・洗濯室。エアコンを備え家事中や湯上がりも快適に。4 サワラの香りと露地庭の眺めを楽しむ浴室は、手入れのしやすいハーフユニットに。



1階



1階



所在地：東京都台東区

家族構成：夫婦

敷地面積：97.14m<sup>2</sup>

延床面積：93.14m<sup>2</sup> (1階48.43m<sup>2</sup> 2階44.71m<sup>2</sup>)

竣工：2019年9月 (工期2019年5月～9月)

改修設計：益子アトリエ (担当：益子義弘、棚橋玄)

ダイニングシェアほか：宗像秀展） 048-481-2421

施工：八光建設株

構造形式：木造（在来工法）

主な外部仕上げ：

屋根＝鋼板瓦棒葺き（既存のまま）

軒天井＝珪酸カルシウム板VP

外壁＝窯業系サイディング

主な内部仕上げ：

天井＝プラスチボード厚12.5mmAEP、

セメント合板目透かし張り（寝室、畳の間）、サワラ縁甲板（浴室）

壁＝プラスチボード厚12.5mm+珪藻土クロス（1階）、

プラスチボード厚12.5mm漆喰塗り（居間、食堂）、

サワラ縁甲板（浴室）

床＝桐無垢フローリングワックス仕上げ（全室）、

コルクタイル（洗面洗濯室）



手前から益子アトリエ所員の宗像秀展さん、益子義弘さん、内藤さん夫妻。